

事業実績報告書

様式 2
(2020年度)

※この報告書は、なごや環境大学のウェブサイト上に記録として掲載されます。

講座番号	B-53	講座名	地域防災力を向上させる、活かし合う関係性を大曽根でデザインしよう
記載日	2020/12/5	団体名・企業名	大曽根まちづくり会議
〈講座全体の概要〉(300字程度)			
<p>コロナ禍を含む災害時に対応する、「いざ!」という時の助け合い・支え合いのネットワークが地域にあることは非常に重要です。この講座は、大曽根という地域をモデルとして、地域防災力を向上させるための前提である「協働」について考えます。名簿や形だけのネットワークではなく、顔が見える「活かし合う関係」のデザインについてワークショップ形式で学んでいきます。</p> <p>第1回：大曽根の地域防災を考えよう</p> <p>第2回：大曽根の暮らしのリアルを知ろう</p> <p>第3回：大曽根の「活かし合う関係の地図」を描こう</p> <p>第4回：次の1歩を踏み出そう</p>			
			
※写真1の説明		※写真2の説明	
講座の様子(第1回:10/15、オゾンアベニュー会館)		インタビュー活動のため移動をしている様子(第2回:10/22、大曽根商店街)	
〈企画・運営者の声(感想)〉(350字程度)			
<p>ハザードマップを中心とした基本的な防災上の知識はもちろん、防災活動の基礎となる地域コミュニティ・地域資源について学んだり、地理的・歴史的な視点で地域を捉える視点も提供できたので、様々な事項を包括的に学ぶことができた講座になっていたといえる。</p> <p>また、グループワークを毎回実施し、参加者の声を集めながら、メンバーで話し合われる内容が地域の実態とどの程度合致しているのかどうかをインタビュー活動で探ることができた(第2回)ことも、この講座を意義深くさせた大きな要素であったといえる。</p> <p>「学んで終わり」「趣味・興味のために学ぶ」ではなく、地域で活動をしていく足掛かりを掴むために学ぶ、ということが出来たことで、地域の問題解決のために学ぶという社会教育的な意義が果たされていたといえよう。</p>			
〈受講者の声(実感した反応及びアンケートより)〉(3~5点、計350字程度)			
<ul style="list-style-type: none"> ・歴史と地学という側面から大曽根のことを学べてとても勉強になった。 ・内容が興味深かった。 ・防災上で不安だと感じていることを共有し、日常の行動や考えにつながる種を得た。 ・普段あまり考えないようなことに対して、充実した議論ができた。 ・4回受けて防災についての不安を地域コミュニティで解消できることが分かった。ひとりでもつながる場を作ることにはできる。 			

●団体紹介

団体所在地	〒462-0813 名古屋市北区山田町3-40		
連絡担当者	白川 陽一	ウェブサイト	
TEL	携帯電話番号に同じ	FAX	
E-mail	ozone.machi@gmail.com	携帯電話	080-4505-4141
〈団体・企業の簡単な紹介・PR〉(150文字程度)			
当会は、大曽根商店街及び大曽根本通商店街に寄り添い、大曽根地域の活性化をともに企画、支援することで、大曽根地域のまちづくりを担う団体・個人が手をつなぎ、必要な事業の展開を図り、まちづくりを効果的に推進し、もって地域社会の発展に寄与することを目的とする。			

●講座開催情報

第一回	講座名	大曽根の地域防災を考えよう	開催日	10月15日	木
	講師名	福田 啓次	参加人数	13	名
	内容	あいさつと導入 / 参加者とスタッフの自己紹介 / 大曽根の紹介 / 話し合い活動 / 感想共有と本日のまとめ / 次回予告など			
第二回	講座名	大曽根の暮らしのリアルを知ろう	開催日	10月22日	木
	講師名	福田 啓次	参加人数	9	名
	内容	あいさつと導入 / 前回の復習 / インタビュー活動（屋外活動） / 話し合い活動 / 本日のまとめ / 次回予告など			
第三回	講座名	大曽根の「活かし合う関係の地図」を描こう	開催日	11月5日	木
	講師名	福田 啓次	参加人数	11	名
	内容	あいさつと導入 / ミニレクチャー「共助への備え」 / 話し合い活動 / 本日のまとめ / 次回予告など			
第四回	講座名	次の1歩を踏み出そう	開催日	11月19日	木
	講師名	福田 啓次	参加人数	9	名
	内容	あいさつと導入 / 前回までのふりかえりと現時点での概括 / 話し合い活動 / ミニレクチャー「風土論」 / 感想共有と全体のまとめ			